# 自由にものを言う「らくがき」運動の目的

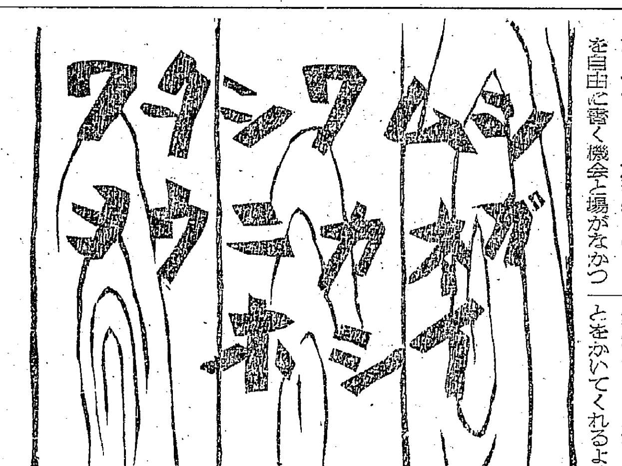
わたくしたちが、こどものころは「落書すべからず」という掲示がなされ、らくがきすることは一つの罪悪であつた。ところが最近、労働組合の教宣部で「らくがき運動」が起されている。この運動の起りは、全国的に人権闘争で知られた近江絹糸の組合が最初に、自由にものを言う、ありのままをさらけ出すということが目的で出発している。

## 知らぬは執行部ばかり！

近江絹糸労組の教宣部長会議で「仲間のことを一番よくしつているようでしらないのは組合の幹部だ。むつかしいことをいつてみんなをひきずりまわしてきたが誤りだつた。みんなは自分の行動が正しいのかどうか苦しみながら生活しているのではないか、考える力、書く力もみんなもつている。本当にものごとを自由に書く機会と場がなかつただけなのだ」ということが、討論の中から生れ、とにかく書く場所をつくろうということになつた。

この討論があつてから早速職場や寮で「らくがき帳」が配られ、その結果から「今まで書いたことのない人にもつともつと書いてもらおう」ということになり、「らくがきの多いのは職場の便所だ、便所でならばだれでも書きたいことをかいてくれるよ」「衛生に悪いよ」「もう暑くないからいいよ」という討論のすえ、職場の便所にもらくがき帳がつるされるようになつた。

この「らくがき帳運動」について野間宏氏はいつている。



## 生活記録を發展さす

野間　宏

「らくがき運動に眼をみはる。どのように計画をたて、どのようにとりだそうとしても、とりだすことのできなかつたひとの心の奥底が、ここにとり出されている。サークル運動、民衆詩の運動、生活綴方記録の運動は日本のなかにひろくひろがり、これまで明にすることのなかつた多くの人の生活と心を次々と明にして行つた。そしてそれはいまなお、各地にひろがり深まつている。私たちはその運動の大きな力をはつきり認め、それに参加しようと努力してきた。しかしその大きな力をもつた運動も、なお、どうしてもとりだすことのできないものを残しているように見えた。なおその運動からとりのこされる人々、その運動に眼もくれない人々、そのわくを感じる人々がたくさんいた。それ故に生活記録の運動は大きくひろがろうとしながら、いまのびなやんでいるのである。しかもこの停滞を打ち破るということは、非常に困難だと考えられた。ところがこの困難を近江絹糸の人たちのはじめた「らくがき」運動がつき破つた。

## 飾りけのない真実の声

「らくがき」運動の中途はんぱなところでは「らくがき」そのものが、個人攻撃や中傷が多く書かれ、団体のためにやるのか、分裂のためにやるのかわからぬという批判も過程にあつた。「らくがき」の多くは、母のこと、ふるさとのこと（女子労働者が故郷を遠く離れて来ていることもあろう）恋愛のこと、金のことなどが多い。その二、三を拾つてみる。

## 秋　風

――砂川に思う

三川支部　森　啓助

トラツクの上で
風がひるがえり
ひだの多い
紺色の山に見えた

恋人の胸には
秋の光がそゝぎ
その乳房は
ぼくの掌に重かつた

立木の折れる音に
ぼくは
驚いて振返つた

傾斜もないのに
山はもうそこまで
ずり落ちて来ていた

### お母さん

母さんも五十才になる。
目をしばしばさせて……
いつも涙をためていたが……
あれより以上に目が悪くなつているだろうか。今はいい目薬もあるが、ずい分高い。だからなんぼ出していいかなあ……と思う。母さんに目薬をかつてやりたい。

×　×　×

幹部はもう少し組合員の意見も通してほしい

×　×　×

書ク事バカリサセテ、少シハ組合ニ通ジルノダローカ

×　×　×

絹糸の男性は、浮気物（者）だから、少し可愛娘さんの事も考えて丁だいよ
女をオモチヤにしてるわ

×　×

初めて頭の毛をのばした時、妙にうれしくて、あけてもくれてもよくなぶつたものさ
今ぢやてんでかまわんが

×　×

影口はやめましよう
そして男性と話していると
すぐ変なうわさをする人が居る
そんなことをいうときれいな交際は出来ない
人が誰れと話そうがそんなこと
皆んなの知つた事ぢやない
そんな事を言う人は
やけているしようこ

×　×

わたしの手を笑わないで
私達の仕事は油仕事ですから
手など人前出せず困ります
みんな手を見て笑わないで下さい

### だん　だん

おれたち深夜の者は―
金が第一か、体が第一か良く考えよう。今は若いからもつようなもののだんだんいかれて行くのだ。視力はどうか、おれたちが一歩一歩と無意識の内に若い肉体はおかされている事を

## 三池にも芽生えよ

三池でも各支部編集員（教宣部員）の人々が集り「らくがき」を通じて、組合員の人々や主婦の声を聞く運動を起そうということが論議され、早速港務、三川支部などがとりあげ実施にうつしている。三池の場合どんなことがかかれているか、支部よりの連絡によると

×　×

期末手当の職員三、六倍は、反対だ　カレモ人なり　ワレモ人なり

×　×

クサクテ　クライノガベンジヨダ　ナントカナランモノカネ

×　×

汽車は行く　船は行く　うまくゆかぬは　おいらのくらし

×　×

日本選手権に　西テツ、ライオンズが勝つことを祈る

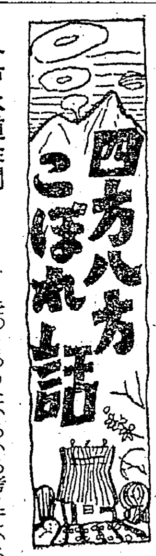
十二日には応援に行く　誰か同志は居らんか

×　×

行きたいが金がナイ

×　×

まだまだ三池の「らくがき」は幼チかも知れないがこれから、一歩一歩生活えの結びつきが出来るであろう。




### 各戸水道余聞

昭和二十九年の福利団交でかくとくした、各戸水道をとりつけることは逐次、会社、組合話合いの上完成しているが、この裏にはいまゝで、水道端でペチヤ、クチヤと井戸端会議の中から闘争の批判や組織問題を話していたが、各戸水道になつたのでこれが出来ず、何かこれにかわる、話合いの広場をつくろうといろいろ考えている。

### 第二組合え突込む

遠く一三〇キロの道程をこえ、京の上闘争の支援にニユースカーと一緒に同行した、平島編集部長は、社宅に赤旗がなびいているので組合事務所えと、堂々と入場し「九州炭労の補本教宣部長はいませんか」と問うたところ、返事がない「折角応援に来たのに礼儀知らず」と怒つたが、怒るのが無理、ナント第二組合のソウクツえ行つたわけで、捕虜にならなかつただけでも幸いだ。

### 珍答　奇答！

こんど労組の事務員が自己都合退職するので、その補充に安定所を通じて公募したところ、ナントタツタ一人採用するのに、五十九名の申込みで、実際に五十名受験に来るという盛況で、その答案も珍答、奇答がある。

鈴木茂三郎が、内閣官房長官、衆議院議長、解説家と書いた人がいた。

なおブルガーニンのソ連中尉というのはどういうところから出たのか、こちらが判断に苦しむと立会人もいつていた。

### 西鉱連の悲鳴

野球ファンの夢であつた、巨人対西鉄の日本選手権試合が、後楽園と平和台で行われ、三鉱労組の西鉄ファン、十三日の夜から十四日にかけて大挙観戦、西鉱連の事務局は、この三池の組合員に加えて山野、田川が集り甚だ賑かで、事務局はとうとう睡眠不足で悲鳴をあげている。

## 三字違いが最高（第三回）第四回の賞金二千圓

## 賞金五百圓　【第五回】ヤマ・グラム（締切十月廿一日）

【ヒント】九月二十三日大分市で開かれた九州のうたごえ大会に参加した人の中から二人に会場でのその時の気持ちを聞いてみた。

【問　題】

無◇◇◇で◇が一杯になつた◇度うたつたら到底来年から◇◇するということは◇えられない◇◇もぜひ◇◇するようにするまたAさんはこの◇◇のふん囲気を◇◇や地◇にまで押し進めなければならないと角◇◇してしまいうたつているうちに◇が◇てきて◇方がなかつた。

▲使用文字　当用漢字に限ります（補正文字をふくむ）音訓も当用漢字音訓表によります。

当用漢字ではかなりの字体が簡略になつていますが、新旧どちらの字を使つても正解です。

▲解答は順番に漢字を書くだけで結構です。

▲賞金　五百円、正解者多数の場合は抽せんにより五名に分配します。

▲応募規定　用紙はハガキの大きさ。解答用紙には「みいけ」欄外の三鉱労組のマークを切抜いてはつて下さい。組合員に限る。なお氏名はもちろん、支部名、職名も必ず記入のこと。

▲【宛先】大牟田市不知火町二丁目七六　三池炭鉱労働組合編集部ヤマ・グラム係。

本部編集部か支部教宣部へ直接届けられても結構です。

▲正解者なき場合は、賞金は次回に加算いたします。

【第三回解答】応募数二四八通

違恋仲人下短時晴二人公休日以外皮肉公日数二回三回代同働

△間違いの多かつた個所

（恋仲）正解六八。恋人、相愛、友達、親友、親子などがあつた。

（皮肉）正解六三。残念が圧倒的であつた。もう一歩突込んでもらえば皮肉が浮んできたと思います。

（二回三回）正解二三。問題中最大の難関であつたと思います。三池なども特殊な仕事を除いては月に大体二回で、祭日等特殊公休日のあるときは三回位になつたそうです。

（代）正解六三。七〇％までが変か替であつた。変は色が変つた、変つた顔だねというときに使う。替は換の同義でこの場合は代が正しい。

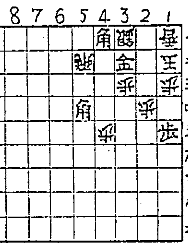
△三字違いが最高で二人（三川浜野国義、三作山口秀人の両氏）でした。二名の方には進呈金賞を今回も贈ります。支部で受取つて下さい。

▲なお投稿の中には一・四面欄外（下）の回数のつけてあるマーク以外のものを貼つていられる人もありますが、これはもし正解となつても無効とします。

## 詰将棋

【ヒント】飛の横ききをはずすこと合駒さえすれば不詰となる

（出題　四山　小野強）



持駒　金銀銀

## 前進座　勧進帳

河原崎長十郎、中村がん右衛門一行が十月十九日市民会館で大牟田公演を行うことになつた。演し物は「友禅女房」「勧進帳」「お染久松」である。

武蔵坊弁慶　河原崎　長十郎
富樫左衛門　中村がん右エ門
源　義　経　嵐　芳三郎

幕が開くと、富樫の左エ門が番卒を三人卒いて出て来る。そして源頼朝と義経の仲が不和になつたので、義経主従は作り山伏となり奥州へ逃れることを頼朝がきき国々に関所を設け、義経主従を捕えよとの厳命で、自分はこの安宅の関を守ることになつた由を述べ番卒に、山伏を固く詮議せよと申付ける。

〽旅の衣は篠懸の、露けき袖やしおるらん、時しも頃は如月の如月の十日の夜、月の都を立ちいでて

と長唄になつて、義経はキフを背負い、網代笠で顔をかくして金剛杖を持つて花道から出て来る。これに従うもの、常陸坊海尊、駿河次郎、片岡八郎、亀井六郎、最後に武蔵坊弁慶の五人、何れも山伏の姿である。

義経は、行く先々に新関があり弁慶の言葉に従つて強力に姿をやつしたとはいえ、なかなか陸奥まで落ちのびられまいと案じるが、弁慶は、ともかく自分に任せて笠を深々と召され、草臥れた体にもてなし、強力と見せてこの関を通ろうという。

一同が関へかゝると、富樫はこれを止める。弁慶は

「言語同断、かゝる不祥のあるべきや、この上は力及ばず、さらば最後の勤めをなし――」

と、四天王一同と共に珠数を押しもんで祈る。これを見て富樫も殊勝な覚悟と感じ入り、東大寺の勧進というからには勧進帳があろうから、それを読んできかせてくれという。

弁慶は、もとより勧進帳など持つている筈はなく、しかし突嗟の機転、キフの中から巻物一巻を取り出し、勧進帳だと偽つて、声高々と読み上げる。しかし富樫は、なおも山伏の故実因縁について問いただすが、弁慶はすらすらと答える。

富樫の疑いもこれで晴れたのを喜んだ弁慶は一同を促して関を通ろうとするが――